

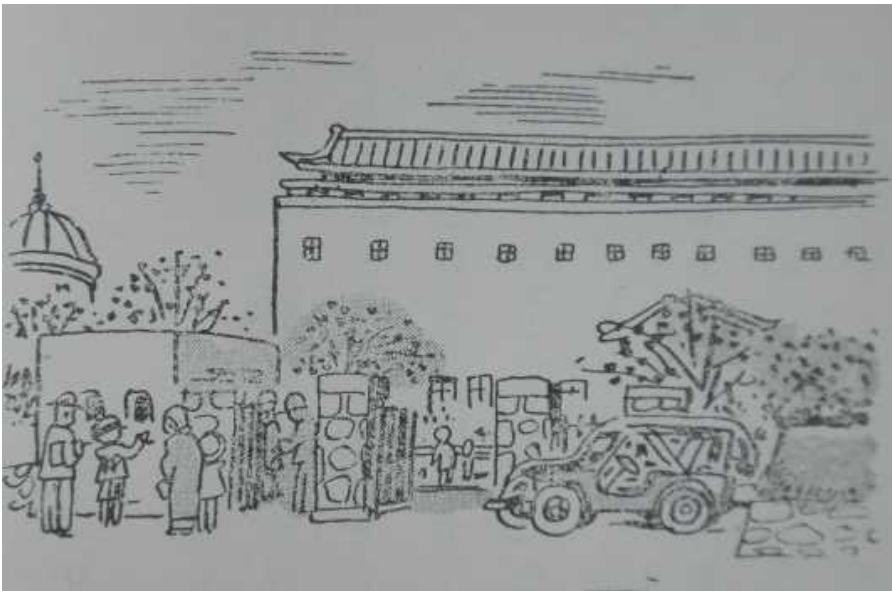
五 はくぶつかん

(一)

となりのおじさんが、はくぶつかんにいかれるというので、たろうくんは、みつこさんをさそって、つれていっていただくことにしました。おじさんはわらって、「うん。はくぶつかんは、まだむりかな。帰りには、動物園にもよろう。」といわれました。

きょうは、学校が休みなので、おべんとうをもって、朝からでかけます。いくつか電車を乗りかえて、やっと、はくぶつかんのある町につきました。

はくぶつかんは、大きな森のちかくにあるきいろい二かいだてのたてものです。おじさんは、入口できっぷを買いました。



門をはいって、いけのふちの、うつくしいにわを通っていくと、りっぱなげんかんにでます。秋の日は、いっせいにふりそそいでいるにわでは、はるばるいなかからでてきたら

しいおじいさんが、石にこしを下ろして休んでいました。きょうは、ふだんより人がすくないのだそうです。

入口から、すぐ右のへやにはいりました。

てんじょうがなくて明るい、大きなへやです。ガラスの戸だながいくつもあって、そのなかに、いろいろなものがならべられてありました。

「これは、おおむかしの人がつかったどうぐだ。それ、石のおのがあるだろう。このつぼは、みんな、土でつくってあるのだよ。」

おじさんが、ゆびさす方をみると、もようのはいた、おもいつぼがいくつもありました。石のおのというのは、石を



こすって、はのところをうすくしたものだそうです。まだ、ぐあいのよいざいりょうも、べんりなきかいもなかったころですから、このようなものをつくるにも、どんなにほねがおれたことでしょう。

「こんな古いものを、だれがいままでもっていたのでしょ

う。」

みつこさんが、おじさんいたずねています。

「そうそう、これはね。土の中からほりだされたものなのだよ。おおむかしに人がすんでいたところからは、いまでも、よくほりだされることがある。」「まあ、よくこわれなかったわねえ。」「ああ、ぼく、思い出したよ。いつか、学校のかべ新聞にでていた。静岡けんで、ほりだされた話ね。」「たろうくんは、よく知っているなあ。ごらん、静岡でほりだされたものが、もうここにきているよ。」おじさんは、そういつてつぎのへやにはいっていきました。

(二)

つぎからつぎへと、へやがつづいていきます。古いものがおいてあるので、いためないようにと、空気のしめりぐあいにまで、気をつけてあるのです。みている人たちも静かなので、ガランとして、ものおとひとつしません。

一かいには、おおむかしのどうぐのほかに、むかしの人のつくった、みごとなかたなや、すずりばこのようなぬりものがありました。どれも、名人といわれた、すぐれた人たちのつくったものです。

いろいろなかたちの、ほとけさまもありました。木でつくったものや、かわでつくったものがあります。大きなのは、ガラスの戸だなのそとにおいてありました。



「はくぶつかんでは、ならべてあるものに、手をふれてはいけないよ。くる人がみんなさわったら、せっかくだいじにしてあるものが、いたんでしまうだろう。」

おじさんは、にこにこしていられます。たろうくんは、びっ

くりして、ほとけさまのだいの方へのぼしていた手をひっこめました。

「あれは、奈良にある、ゆうめいなおおてらのほとけさまだ。やさしいおかおだろう。こくほうになっているよ。」

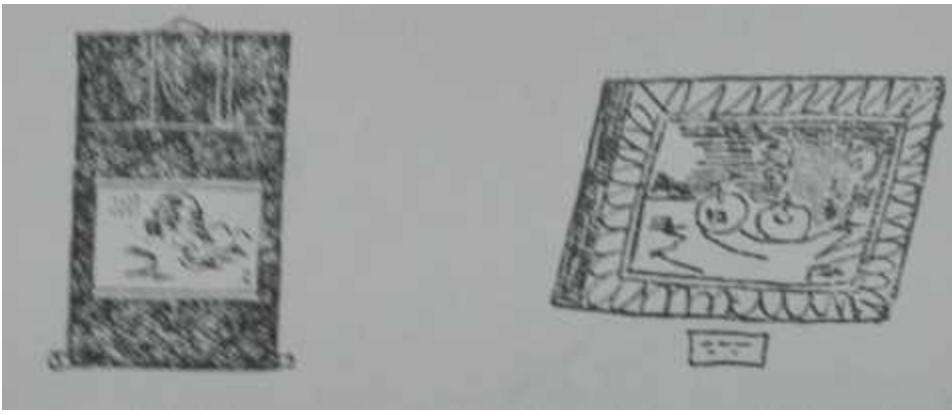
「おじさん、こくほうというのはなに。」たろうくんがたづねます。

「こくほうというのはね。」日本の國では、むかしこんなものを使っていた、また、こんなにっぱなものができた、ということ、のちのちまでつたえることができるように、だいじにとっておくものことだ。そうしないと、きっと、こわれたり、なくなってしまうだろう。ここにあるほとけさまは、みんな、千年以上もむかしのものだが、こくほうになっているものはすくなくないよ。」

ひとまわりしたら、すっかりつかれました。それで、きゅうけい室で、ひと休みすることにしました。

(三)

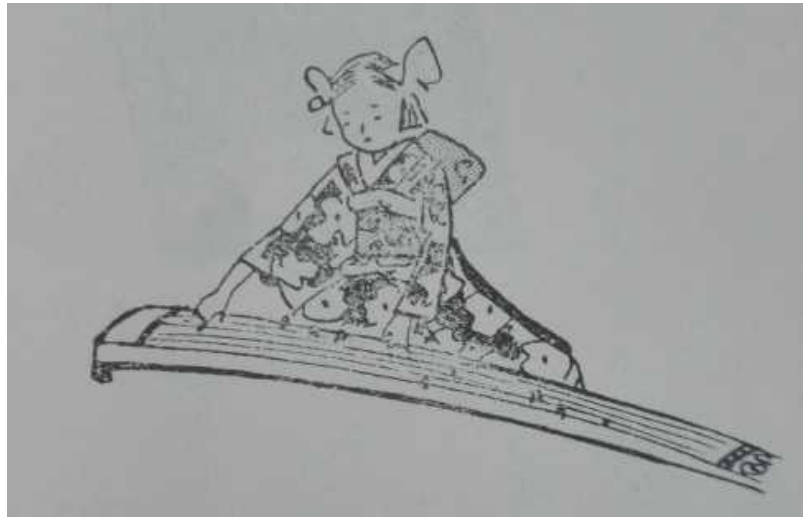
二かいには、絵があります。「まあ、あんなにさけているわ。ずいぶん古い絵ね。」みつこさんは、いつものように、目をくりくりさせます。「これは、すみで書いてあるわ。たろう



さんのおうちの、とこのまの絵とにているじゃないの。」「学校のずが室にかけてある絵とは、ずいぶん

ちがうなあ。」

おじさんの話によると、すみ絵は、むかし中国から伝わってきたものだそうです。「中国の人が書くのと、西洋の人が書くのとでは、おなじものを書いても、ずいぶんちがった書き方をするだろう。遠くはなれて住んでいると、こんなにまで違ってくるのだねえ。」これは、絵ばかりではありません。おんがくのことを考えてみても、たいそうちがっています。



みつこさんは、ねえさんおならっているおことと、ラジオ

できくオーケストラと比べて見てなるほどと思いました。

そのつぎのへやには、すみで書いた、字のかけものがあります。まるで、おどっているような、いきおいのよい大きな字もあれば、こまかく、きれいにならんだ字もありました。日本や中国では、むかしから、ふでとすみをつかっていますが、西洋では、ペンとインキで書きます。

せとものをならべてあるところも通りました。大きなおさらの中に書いてある絵がおもしろいので、ふたりは、ガラスの戸にかおをおしつけて、のぞきました。こんなうつくしいせとものも、びっくりしました。

くたびれたので、なか休みをすることにしました。ちょうど、おひるになります。



「おじさん、そとの
しばふで、おべん
うたべようよ。」

たろうくんは、ま
っさきに、大きな
いだんをかけおり
ていきます。

いけのそばの、石
のこしかけにねこ
ろんでいと、すみ
きった青い空を、

ゆうと、雲が流れていきました。

「むかしの人もえらいわねえ。汽車も電車もなかったのに
ねえ。」とつぜん、みつこさんは、ほっぺをおさえて、ため
いきをつきました。

「電唐だってないさ。ま
いにち、てい電とおな
じだぞ。」

たろうくんは、おお
きなおむすびをほお
りながらこたえます。

いけのふちに、はと
がまいおりて、よち
よちあるいているの
がみえます。水の上
に、かれたはっぱが
一まい、ぽっかりう
かんでいます。



午後は、動物えんにいくのです。